



ポンポコ日

二宮由紀子

絵・斉藤好和

きょう、タヌキのポンタは、ポンポコ日です。

「いいなあ、ぼくのポンポコ日なんか、まだずうっと先だ」と、おにいさんが、口をとがらせます。

「いいじゃないの、ポンタのポンポコ日だって、ごちそうは、わたしたちも食べられるんだから」

と、おねえさんはいって、

「いただきます」

と一番にポンポコ日のポンポコポニヤスッパンを自分のお皿にとりました。

「あっ、ずるい、ぼくのポンポコ日なのに」

と、ポンタも急いでポンポコポニヤスッパンを自分のお皿に。ポンポコ日のポンポコポニヤスッパンは、イチゴとサクランボとヘナポンも入っていて、ものすごくおいしいのです。

「まあ、ふたりとも、おぎょうぎのわるいこと。その前にポンポコ日のおいまいのかんぱいをしなくちゃね」

といいながら、おかあさんがポンタのグラスにポッターペシスッコンジューズをそそいでくれました。

ふわっとピンクのあわがたって、いいにおい。

「さあ、ポンタのポンポコ日、おめでとう」

「おめでとう！ かんぱーい！」

テーブルには、ポンポコポニヤスッパンのまわりにも、あつあつのポポタンとゆで卵のグラタンや、バターライス